

處々にして申宣たる法門繁多なりといへども、所詮は只此の一途也。世間の學者の中に、眞言家に立たる即身成佛は釋尊所説の四味三教に接入したる大日經等の三部經に、別教の菩薩の授職灌頂を至極の即身成佛等と思ふ。是は七位の中の十回向の菩薩、歡喜地を證得せる爲體也。全く圓教の即身成佛の法門にあらず。假令經文にあるよしを尙とも、歡喜行證得の上にて得たるところの功德を沙汰する分齊にてあるなり。是十地の菩薩の因分の所行にして、十地等覺は不知果分。圓教の心を以て奪ていへば、六即の中の名字觀行の一念に同じ。與て云時は觀行即の事理和融にして理慧相應の觀行に及ばず。或は菩提心論の文により、或は大日經の三部の文によれども、即身成佛にこそあらざらぬ。生身得忍にだにも云よせざる法門也。されば世間の人々

菩提心論の唯眞言法中の文に落されて、即身成佛は眞言宗に限ると思へり。依之正しく即身成佛を説給たる法華經をば戲論等云云。止觀五云。設厭世者。翫下劣乘。攀附枝葉。狗狎作務。敬彌猴爲帝釋。崇瓦礫是明珠。此黑闇人豈可論道等云云。此意なるべし。歎しき哉。華嚴眞言法相の學者、徒にいとまをついやし即身成佛の法

門をたつる事よ。夫先法華經の即身成佛の法門は龍女を證據とすべし。提婆品云於